

# 業績のご報告

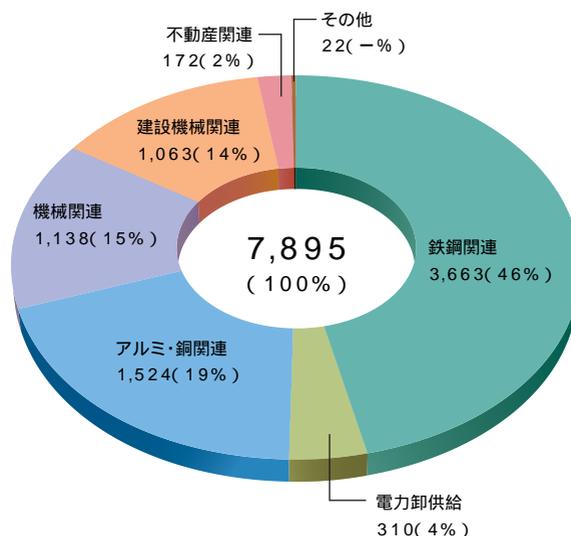
## 当上半期の概況

当上半期のわが国経済は、企業収益の改善を背景に設備投資や個人消費などの民間需要が堅調に推移したことに加え、米国経済や中国を始めとするアジア経済が引き続き好調であったことなどから、景気は踊り場を脱却し回復に向かいました。

当上半期の連結業績につきましては、売上高は前年同期に比べ1,047億円増収の7,895億円、営業利益は408億円増益の1,082億円、経常利益は402億円増益の854億円となりました。また、特別損失として、本年10月1日の不動産事業分割に関連して発生した損失や、本年5月に加古川製鉄所で発生した火災事故に係る損失を計上したことなどから、税引き後の中間純利益は367億円となりました。

単独業績につきましては、売上高は前年同期に比べ839億円増収の5,108億円、営業利益は369億円増益の773億円、経常利益は348億円増益の603億円となり、税引き後の中間純利益は223億円となりました。

## セグメント別売上高(平成17年度上半期) (単位:億円)



(注) その他には「電子材料・その他の事業」とセグメント間の内部売上高等の消去額が含まれております。

## 鉄鋼関連事業

国内の鋼材需要は、自動車、造船など製造業向けを中心に、中高級品分野において極めて旺盛に推移しました。一方、輸出については、中国における生産能力の拡大等を背景に、汎用品分野で需給バランスが悪化し市況が軟化しました。こうした状況の中、当社は国内需要家の要望に対応する一方、輸出では価格維持を最優先に慎重な受注姿勢を継続したことにより、鋼材の出荷数量は輸出向けが減少したものの、全体では前年同期を上回りました。一方、鋼材販売価格は、原材料価格

が高騰する中、中高級品における需給の逼迫等を背景に着実に改善しました。

溶接材料については、国内が自動車や造船向けを中心に好調であったことに加え、海外においても、

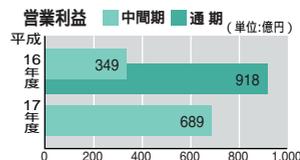
自動車、造船のほかエネルギープロジェクト案件向けが堅調に推移しました。

この結果、売上高は前年同期比25%増の3,663億円となり、営業利益は前年同期に比べ340億円増益の689億円となりました。



線材・棒鋼製品

### 鉄鋼関連事業



## 電力卸供給事業

現在、1号機、2号機あわせて140万キロワットの電力を供給している神鋼神戸発電所では、売上高は電力単価に転嫁される燃料用石炭価格の上昇等により、前年同期比13%増の310億円となりました。営業利益は安定操業の確保に向け

て設備点検を実施したことなどから、前年同期に比べ13億円減益の83億円となりました。



神鋼神戸発電所(中央操作室)

## アルミ・銅関連事業

アルミ圧延品は、主力の飲料用缶材において、国内向けはボトル缶の採用増により増加したものの、輸出を大幅に削減したことから、缶材全体の販売量は前年同期を下回りました。また、自動車向け板材がアルミ化の進展等により増加しましたが、昨年の猛暑影響の反動によってエアコン用フィン材等が減少したことに加え、押出材も低調であったことから、アルミ圧延品全体の販売量は前年同期を下回りました。

銅圧延品の板条では、半導体向けが総じて調整局面にありましたが、自動車電装部品用端子向けが引き続き好調に推移したことから、前年並みとなりました。一方、銅管では、空調用銅管の需要が昨年の猛暑影響の反動で減少し、輸出も削減したことから、銅圧延品全体の販売量は、前年同期を下回りました。

以上のように、販売量は減少したものの、地金価格の高騰や販売価格の改善などにより、売上高は前年

同期比4%増の1,524億円となり、営業利益は前年同期に比べ37億円増益の122億円となりました。



磁気ディスク用アルミ基盤

## 機械関連事業

機械受注のうち、国内向けは、民間設備投資の増加を背景に汎用圧縮機等が増加したことにより、前年同期比4%増の685億円となりました。また、海外向けは、石油・ガス、エネルギー分野を中心に非汎用圧縮機や、リアクター等のエネルギー関連機器が好調であったことに加え、ゴム・タイヤ機械も堅調であったことから、前年同期比33%増の418億円となりました。

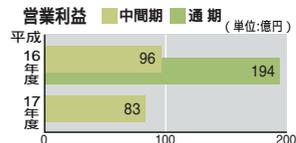
この結果、当事業全体の受注高は前年同期比13%増の1,103億円となり、当上半期末の受注残高は2,447億円となりました。

また、売上高は好調な受注の継続を受けて、前年同期比24%増の1,138億円となり、営業利益は前年同期に比べ29億円増益の31億円となりました。

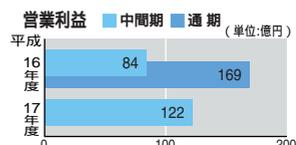
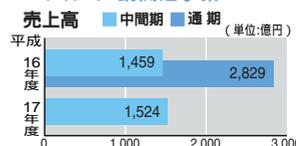


LNG気化器

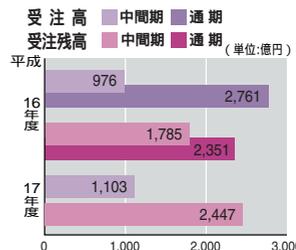
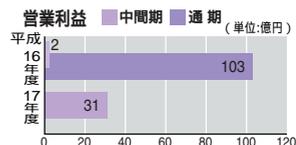
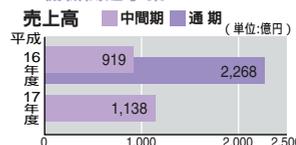
### 電力卸供給事業



### アルミ・銅関連事業



### 機械関連事業



## 建設機械関連事業

油圧ショベルの国内市場は、堅調な民間建設投資や中古車の輸出による国内ストック台数の減少等を背景に、好調を維持しました。一方、海外市場では、インドネシアが調整局面にあるものの、東南アジアが総じて好調に推移し、欧米市場も拡大基調を維持していることに加え、低迷していた中国市場にも漸く底打ち感が出てきたことから、全体としては堅調に推移しました。

このように需要環境は総じて良好であったものの、中国市場の停滞による影響もあり、売上高は前年同期比ほぼ横ばいの1,063億円となり、営業利益は前年同期に比べ7億円減益の36億円となりました。



油圧ショベル

## 不動産関連事業

首都圏の新築マンション発売戸数は、景気拡大基調を背景に増加しつつありますが、近畿圏ではほぼ横ばいで推移しました。

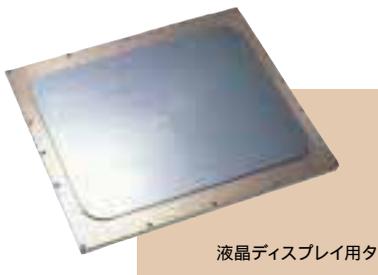
このような状況の中、不動産販売事業において、当上半期での竣工・引渡し案件が少なかったこともあり、売上高は前年同期並みの172億円となり、営業利益は前年同期に比べ2億円減益の13億円となりました。



ジークレフクラッシィ西宮

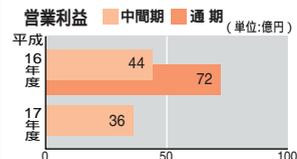
## 電子材料・その他の事業

液晶ディスプレイ用ターゲット材の需要が引き続き好調に推移したことなどから、全体の売上高は前年同期比12%増の282億円となり、営業利益は前年同期に比べ20億円増益の84億円となりました。



液晶ディスプレイ用ターゲット材

### 建設機械関連事業



### 不動産関連事業



### 電子材料・その他の事業

